

おきたま 社会教育情報

Vol. 144 令和4年8月号

第1回公民館・コミュニティセンター・社会教育関係職員等研修会

自分史活用講座

「一枚の自分史」～写真から思い出を綴る～

7月15日（金）高畠町糠野目生涯学習館を会場に、第1回公民館・コミュニティセンター・社会教育職員等研修会を開催しました。企業組合リンクシップの伊藤洋子氏を講師にお招きし、①自分史の魅力と活用法②一枚の自分史の書き方を学ぶ③一枚の自分史を書く（ワークショップ）という3部構成で行いました。「自分史」と聞くと、生まれた時から現在までを年表のようにまとめるのではないかと、思われがちですが、今回は1枚



の思い出の写真を、1枚（A4）の用紙にまとめる、絵日記のような自分史作りです。自分史を書いた後は、グループごとに発表、共有しました。参加者からは「過去の自分を見つめ直すよいきっかけとなりました。今後の展望や目標に向かって、自分自身の人生をより豊かにしていきたいと改めて感じました。」「自分を語ることに苦手で心配でしたが、予想していたより集中して取り組みました。また、周囲の方との共有の時間はとても楽しく充実したものでした。」等の感想をいただきました。『自分史をつくとよいこと』（「今まで生きてきた証を残すことができる」「自分をよく知ることができる」「脳を活性化できる」「コミュニケーションが深められる」）を実感できた研修会となりました。



初のリモート開催！第60回山形県スポーツ推進委員研究大会

7月2日（土）、3年ぶりに山形県スポーツ推進委員研究大会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大により会場の確保が難しいため、寒河江市をメイン会場としたオンライン開催となりました。参加者からは、「ニュースポーツを知ることができたので、視野を広げることができた。」などの声が聞かれました。今後は、記録集の発行と、各市町村へのモルック用具一式の配付が予定されています。

○基調講演『これからのスポーツ推進委員に期待されるマネジメント力』

講師：松岡 宏高 氏（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授）

○全体研修（パネルディスカッション）

『スポーツ推進委員が目指す共生社会～コーディネーターとしての役割をとおして～』

○事例紹介 ①シッティングバレー（山形県障がい者スポーツ指導者協議会）

②モルック（山形県モルック協会）

③バックカール（ほなみふれあいスポーツクラブ）

○初任者研修 講師：三坂 真治 氏（尾花沢市スポーツ推進委員会）

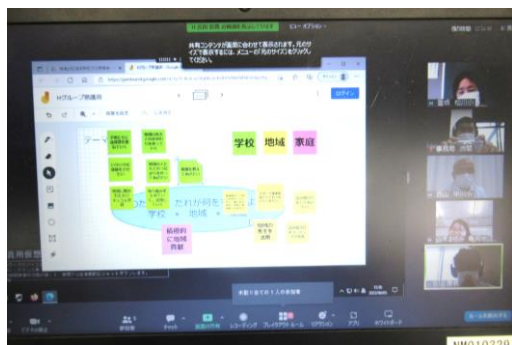


令和4年度置賜地区地域とともにある学校づくり研修会

(兼) 社会教育主事有資格教員等研修会 (兼) 公民館・コミュニティセンター・社会教育関係職員等研修会

8月5日(金)に、令和4年度の地域とともにある学校づくり研修会が行われました。当初は参集型で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、急遽オンライン型に変更しての開催となりました。

今年度は、一般社団法人エス・プレイス代表理事で文科省のCSマイスターである井上尚子氏を講師に迎え、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の理解と一体的推進～学校、地域それぞれの視点と効果的な熟議の作り方」というテーマで、講義と演習を行いました。前半は学校運営協議会を円滑に運営する為のポイントや、地域学校協働活動を学校と地域それぞれの立場に沿って説明いただくと共に、今後の活動の参考となる事例をたくさん紹介していただきました。後半は学校運営協議会等で導入が推奨される「熟議」についての解説と、実際に参加者が意見を出し合う熟議体験を行いました。参加者からは「コミュニティ・スクールの今後の有効活用が楽しみになってきました。」「対話を通して信頼を築き上げることが大切であると思いました。」「熟議については、本校で行っている協議会にも取り入れていきたいです。」などの感想が聞かれ、今後の活動に活かせる有意義な研修会となりました。



ブレイクアウトルームではジャムボードを使用して可視化



サテライト会場でも活発な意見交換がなされました

置賜教育事務所では、CSや地域学校協働活動の進め方、熟議の体験等について、出前講座を行っています。学校や各市町教委等の研修会へ社会教育主事がご説明に伺います。詳しくは置賜教育事務所社会教育課(☎0238-88-8242)までお問い合わせください。

置賜地区スポーツ推進委員協議会オンライン研修会

8月21日(日)置賜地区スポーツ推進委員協議会オンライン研修会を開催しました。昨年度からコロナ禍でも開催できる研修会の形式を模索し、事前にZoomの使い方を学ぶ講習会を経ての開催となりました。

はじめに、文教大学の二宮雅也教授より「スポーツ活動を支える魅力とは?～ボランティアは人生を豊かにする～」と題して講演をいただきました。国内外の数多くのスポーツボランティアの現場を知る二宮教授から、スポーツを「する」人と「ささえる」人の関係がどのようにつくられ、そこから喜びや達成感が生まれていくのかを学ばせていただきました。講演の後は、ブレイクアウトルームで3～5人のグループや市町ごとのグループをつくり、講演の内容をそれぞれの市町でどのように生かしていくかを具体的に考えました。参加者からは、「推進委員として支える側としてこれからスポーツを楽しみたいと感じました。このコロナ禍でもまだまだできることがあるのではないかと改めて考えさせられました。」「オンライン形式でのディスカッションであったため、(中略)それぞれの意見を順番に聞くことができた。良い面も多いと感じました。」などの声が寄せられました。研修会の内容を、各市町での活動に生かしていただければと思います。



二宮 雅也 教授

※本情報紙の本文は、UD(ユニバーサルデザイン)デジタル教科書体を使用しております。

【お問合せ先：置賜教育事務所社会教育課 ☎ 0238(88)8242】